

“开始+V”と<V+始める>の対照研究

時 衛国

要旨: 本研究对局面动词“开始”和<始める>の用法进行考察, 探索其相同点和不同点。“开始”和<始める>都能表示动态和静态的始动局面, 具有描写性和可控性, 但在能否与被动句自由共现、能否与持续表达形式共现方面存在明显差异。“开始”对于动态既具有描写性, 又具有可控性, 对于静态描写则要受到若干限制, 用于被动句时只限于表示抽象的行为, 难以表示具体的行为。<始める>可以描写或支配动态、静态的始动局面, 在满足行为主体为复数这一前提下, 还可以描写静态。它既用于能动句, 又用于被动句, 表示各种不同状态的始动局面。

キーワード: 動作過程 局面 始動 対照研究

1. はじめに

始動の局面を表わすものは、中国語には“开始+V(V+始める)”¹や“V+起来(V+してくる)”など、日本語には<V+始める>や<V+てくる>などがある²。この中で、“开始+V(V+始める)”と<V+始める>は語順こそ異なれ、始動を表わすという点では共通している。一方、“V+起来(V+してくる)”と<V+てくる>における“起来(てくる)”と<てくる>は、いずれも動詞の後に用いられ、始動を表わすという点ではほぼ同じである。それで、“开始+V(V+始める)”と<V+始める>、“V+起来(V+してくる)”と<V+てくる>は、それぞれ対応するペアとして対照研究することができる。

本研究は、始動の局面を表わす“开始+V(V+始める)”と<V+始める>という構造について、これまでの研究を踏まえながら、両言語の動作過程における始動の局面とその文法的制限などを考察し、両言語の共通点と相違点及びそれぞれの文法的特徴などを究明することとする。

なお“V+起来(V+してくる)”と<V+てくる>については、今回は取り上げないこととする³。

2. 先行研究

“开始+V(V+始める)”については、吕叔湘主编(1984)では述べられていない。孟琮等(1987)では、「動詞+目的語」という形を取り上げてはいるが、詳しくは分析していない。“开始+V(V+始める)”という構造は、「動詞+目的語」からなる構造と見なされているので、動作過程における最初の局面としての始動の局面という認識はなされておらず、普通の「動詞+目的語」の構造としか認識されていない。実際には、“开始(始める)”は動詞の前に用いられ、目的語を取る形で動作過程における始動の局面を表わすことになる⁴。

<V+始める>については、小田(1986)では、「一、連続的な個別的な運動のはじまり」と「二、不連続的なくりかえしの運動のはじまり」との二つの用法に分けられているが、その本質的な違いについてはあまり述べていない。一方、呉(1995)では、局面動詞「～始める」⁵と「～ている」との関係について次のように述べている。「～始める」形は前項動詞が動作過程・変化過程といった過程性を持つことが前提条件であって、それによって始まりの局面を取り出すことができる。したがって、局面動詞「～始める」形の後につく「～ている」形は、動作過程・変化過程の始まりによってもたらされた状態の存続を表すアスペクト形式である。

鄭(1986)では<動詞+ハジメル>と“動詞+起来”については取り上げられているが、“开始+動詞”については取り上げられていない⁶。原・常次(2010)では“V

起来(V+てくる)”, “开始 V(V+始める)” と「だす」、「～始める」について比較対照している。“开始 V(V+始める)” については、始動の一瞬を表わすだけにとどまり、言い換えると、一つの点を表わすのみであるが、「～始める」については、始動を表わすだけでなく、始動後の経過も含まれていると述べている。

上記の研究における“开始+V(V+始める)” と <V+始める>⁷ についての成果は参考になるものであるが、両構造についてはまだ明らかにされていない言語事実があるので、さらに掘り下げて考察する必要性を痛感している。

以下、これらの研究を踏まえて考察することとする。

3. 分析

3. 1. 動的状態を表わす動詞

“开始(始める)” は動的状態を表わす動詞(いわゆる動作・行為などを表わす動詞)を修飾することができる。たとえば、

- (1) 他开始读书。(彼は本を読み始める)
- (2) 彼は本を読み始める。
- (3) 我开始吃饭。(私はご飯を食べ始める)
- (4) 私はご飯を食べ始める。

“开始” は始動の局面を表わす動詞として、“读(読む)”、“吃(食べる)” などの動詞を修飾することができる。(1) では彼が本を読み始めることを表わしているが、(3) では私がご飯を食べ始めることを表わしている。

発話者は、始動・継続・終結という三局面からなる動作過程全体を視野に入れ、“开始” によってその中の始動の局面を表現している。動的状態を表わす動詞は、動作過程を含むものとして、その意味には持続性を持っていると

同時に、動作過程における三局面の関連性も持っている。三局面はそれぞれの独自性を保ちながら、まとまりのあるプロセスを成している。そのプロセスには三局面には分けられるものの、動作過程によってもたらされた一体性を備えている。それで、始動の局面だけを取り上げても、他の局面の存在がはっきり意識できるので、各局面の間には互いに強い関連性があるものと考えられる。

たとえば、“开始吃(食べ始める)”は始動の局面を表わしているが、継続の局面を表わす“继续吃(食べ続ける)”と終結の局面を表わす“吃完(食べ終わる)”とは密接な関係にあるものと認められる。これら三局面は同一動作による持続性と関連性を有しているため、その中の一つの局面だけを取り上げても、他の局面が意識できるのである。また、その関連性によって、各局面の相互関係も把握することができる。とはいえ、動詞の種類によっては必ずしも三局面を持つとは限らず、二局面か一局面的しか持たない動詞もある。ただ三局面を持つ動詞であっても、二局面か一局面的しか持たない動詞であっても、始動の局面をいずれも持っているという点では共通している。つまり、動詞のいずれにも始動の局面を持っているという点では、大きな文法的特徴だと考えられる。

一方、動的状態を表わす動詞は、様々な動作・行為などを表わすのに用いられることになり、動作過程については始動と継続と終結の局面を揃えており、各局面の状態も表現することができる。

動的状態を表わす動詞には、“看(見る)”“写(書く)”“吃(食べる)”“做(やる)”“学(習う)”“走(歩く)”“跑(走る)”“端(手に持つ)”“说(話す)”“问(聞く)”“挖(掘る)”“挂(掛ける)”“洗(洗う)”“打(殴る)”“偷(盗む)”“抢(攫う)”“商量(相談する)”“分析(分析する)”“考察(考察する)”“收拾(片づける)”“介绍(紹介する)”“研究(研究する)”などがある。

一方、“开始(始める)”と共起できない動詞には、“看见(見かける)”“听见

「聞こえる」「解開(解く)」「分开(分ける)」「办成(成し遂げる)」「做好(ちゃんとやる)」「学会(マスターする)」「记住(覚えておく)」などがある。この種類の動詞は構成的には、「動詞+補語」という構造をとっており、持続性を持たない動詞⁸として分類されているので、持続を表わす“着(テイル)”とは共起できない。その構造によって動作の結果を表わすことになる。そのため、“开始(始める)”との共起も許容されないのである。

<始める>は動的状态を表わす動詞を修飾することができるという点では、“开始(始める)”とはほぼ同じである。

(2)では彼が本を読み始めることを表わしているが、(4)では私がご飯を食べ始めることを表わしている。<始める>は前項動詞の連用形に付いて始動の局面を表わす複合動詞として、その動作・行為が始動することを表わすことになる。それが表わしている局面は、継続の局面と終結の局面とは対立した始動の局面を表現しており、その動作過程におけるすべての局面を全視野に入れているのである。この点においても、“开始(始める)”と大体共通している。<始める>と“开始(始める)”は始動の局面しか捉えることができず、動作、行為の展開を表わすことが共通な特徴であると言えよう。

また、「見かける」「聞こえる」「解く」「分ける」「覚える」などとも共起できるという点では、<始める>は“开始(始める)”と大きく異なっているところである。たとえば、「見かけ始める」「聞こえ始める」「解き始める」「分け始める」「覚え始める」などがそれである。

原・常次(2010)では、<始める>は意志的に「する」場合に用いられると述べられているが、次の用例で示すとおり、自然現象を表わす場合にも用いられる。たとえば、

(5) 降り始めた細い雨が 銀色の緞帳 下ろすように 幕を閉じた それ
れが私の初恋。(「てもでもの涙」秋元康作詞)

(6) 春の風が吹き始める頃には (あのときにまた)あたたかい気持ちで
歩き出したい。(「今でも会いたいよ…」伊藤由奈作詞)

<始める>は、「降る」「吹く」などのような自然現象を表わす動詞と共起し、その現象が始動することを表現することができる。それで、<始める>は動的状态を表わす動詞と共起し、意図的な動作の始動を表わすことができるだけでなく、自然現象の始動をも表わすことができるというべきである。<始める>は本動詞として用いられる場合は、他動詞として用いられることになるのであるが、複合動詞として前項動詞の後に用いられる場合は、前項動詞の自他のいずれとも共起することができる。たとえば、前述の「飲み始める」「食べ始める」「話し始める」「作り始める」は、<他動詞+始める>という構造であるが、「降り始める」「吹き始める」「動き始める」「歩き始める」「聞こえ始める」「咲き始める」「落ち始める」は、<自動詞+始める>という構造である。ここから考えると、<始める>は複合動詞として用いられる場合、他動詞でないとも共起できないというわけではなく、自動詞とも共起できるため、複合動詞としての強い接続力を持っているのである。つまり、他動詞か自動詞かという枠には拘らず、意図的な動作過程についても、非意図的な自然現象の変化過程についても始動の局面を表現することができるということである。動作過程と変化過程については、いずれも始動の局面のみ捉えることになるのである。

一方、“开始”は“开始下雨(雨が降り始める)”“开始刮风(風が吹き始める)”“开始掉落(落ち始める)”“开始枯萎(枯れ始める)”などのように、自然現象を表わす動詞とも共起することができるという点では、<始める>と同じである。

持続性を持つ動詞と共起し、意図的な動作の始動と非意図的な現象の始動をいずれも表現することができるという点では、両語は全く共通しているが、

「見かける」「聞こえる」「解く」「分ける」「覚える」などとも共起できるという点では、<始める>は“开始(始める)”より共起範囲が広いと言える。

3. 2. 静的状態を表わす動詞

“开始(始める)”は静的状態を表わす動詞(瞬間動詞など)については、修飾できるものと修飾できないものがある。たとえば、

(7) 朋友开始住院。(友人が入院する)

(8) ??友人が結婚し始める。

(9) *朋友开始毕业。(「友人が卒業する」の意)

(10) ??友人が卒業し始める。

“开始”は“住院(入院する)”“出院(退院する)”“入学(入学する)”“离开(離れる)”“取消(取り消す)”“脱离(離脱する)”“停止(停止する)”“成立(成立する)”などとは共起することができるが、“结婚(結婚する)”“离婚(離婚する)”“毕业(卒業する)”“开幕(開幕する)”などとは共起することができない。“住院(入院する)”“入学(入学する)”などの動詞は、瞬間動詞として始動の局面を持っているので、“开始住院(入院を始める)”“开始入学(入学を始める)”などのように、“开始(始める)”と共起できるのである。一方、“结婚(結婚する)”“离婚(離婚する)”などの動詞は、“??开始结婚(「結婚を始める」の意)”“??开始离婚(「離婚を始める」の意)”などのように、始動の局面を持っているとは考えられないので、“开始(始める)”とは共起することができない。

この種類の動詞は普通、“*离开着(「離れている」の意)”“*死亡着(「死亡している」の意)”などのように持続を表わす“着(テイル)”とは共起できないため、変化過程を持っていないと思われるが、語によっては始動の局面を表わす“开始(始める)”とは共起できる。これから考えると、この種類の動詞

は変化過程の全局面を持つわけではないが、始動の局面のみを捉えることになるため、“开始(始める)”とは共起することができるのである。

日本語では、「結婚する」「離婚する」「入学する」「卒業する」「入院する」「退院する」「死亡する」「入館する」「退館する」などの動詞は、瞬間動詞として持続を表わす<テイル>とは共起することができるが、始動の局面を表わす<始める>とは共起することができない。「*友人が結婚し始める」「*友人が卒業し始める」などの表現は成立しないのである。なぜなら、常識的には結婚や卒業の始動の局面が考えられないからである。つまり、結婚や卒業は一種の結果を表わすだけであって、行為主体の変化過程が想定できないからである。

ところが、行為主体が複数の場合は、その主体に変化が起きることを表わすことができる。たとえば、「同期の人達は結婚し始めた」「先頭に立つ人達が入館し始めた」などのように、多人数の場合は、始動の局面も表現することができるため、<始める>とは共起することができる。複数主体を必要条件とするという点については、小田(1986)でも触れているが、あまり詳しく述べていない⁹。実際には、この種類の動詞は変化の結果を表わして、変化過程を持っていないが、複数主体という条件によって、変化過程を付与されていることになり、複数主体における一部の始動の表現として<始める>とは共起できるようになる。この用法は複数でないと使用できないという点では、動的状態を表わす動詞とは区別される。動的状態を表わす動詞は、単数か複数には拘らず、始動・継続・終結のいずれの局面も持っている。それに対し、静的状態を表わす動詞は、複数主体の存在が前提で、しかもそれによる始動の局面のみを表わすことになる。この点については、<始める>とは共起できるが、主体が複数という構文の条件が要求されており、始動の局面しか捉えられないということから、瞬間動詞は文法的にさまざまな制限を受けているものと言える。

静的状態を表わす場合は、中国語の“开始”との共起の可否は、語の意味

によるものであるが、日本語の〈始める〉との共起の可否は、主体が複数であるかどうかによるものである。したがって、両言語はそれぞれそれなりの制限を受けており、そのままでは始動の局面を表現することができないというわけである。

3. 3. 描写性と制御性

描写性とは動的状態と静的状態を客観的に描写する性質のことであるが、制御性とは動的状態に対し話し手が主観的に働きかける性質のことである。

“开始(始める)”と〈始める〉は、いずれも描写性と制御性を持っているという点では共通している。

(11) ??他开始喝着牛奶。(「彼はミルクを飲みはじめている」の意)

(12) この原稿を書いている十一月二十七日現在、手術を受けた裕弥ちゃんは順調に回復して、医師団の発表では、自力でミルクを飲みはじめているという。(渡辺淳一著『風のように・みんな大変』P196 講談社 1994)

(13) ??她开始写着稿子。(「彼女は原稿を書きはじめている」の意)

(14) そんなに辛くて苦しいものなら、初めからやらなければよさそうなものだが、また、一、二年も経つと、書きはじめているかもしれない。(渡辺淳一著『風のように・別れた理由』P76 講談社 2000)

“开始(始める)”は“开始喝牛奶(ミルクを飲み始める)”“开始喝牛奶了(ミルクを飲み始めた)”などのように描写性を持っているが、(11)(13)のように、持続を表わす“着(テイル)”とは共起できない。これは“开始(始める)”が動詞と共起する場合は、“开始喝(飲み始める)”“开始写(書き始める)”のように“开始+動詞”という構造全体が瞬間動詞と同じ性格を持つようになり、

持続を表わす“着(テイル)”とは共起できないからである¹⁰。

“开始”はまた制御性を持っているため、“开始喝!(飲み始めてくれ)”“开始写!(書き始めよう)”などのように、意志表現、願望表現、命令表現、依頼表現などにも用いることができる。話し手の気持ちを表わすため、個人的な意志や願望はもとより、聞き手に対しては働きかけることもできる。たとえば、“我想开始喝(飲み始めたい)”“我要开始喝(飲み始めよう)”“你开始喝吧(飲み始めてくれ)”“请您开始喝(飲み始めてくださいませんか)”などがそれである。

<始める>は描写性を持っているので、「飲み始めた」「書き始めた」のように助動詞の<タ>と共起できるだけでなく、(12)(14)におけるような継続を表わす<テイル>とも共起することができる。(12)(14)はいずれも始動の局面の持続を<テイル>との共起によって表現していると考えられる。「飲み始める」「書き始める」は<テイル>と共起する場合は、瞬間動詞と同じような性格を持つ複合動詞になり、その結果としての始動の局面を表現している。なぜなら、<始める>はその動作の結果を表わすからである。また<始める>は制御性を持っているため、話し手の意志表現、願望表現、命令表現、依頼表現などと共起することができる。「飲み始めたい」「飲み始めよう」「飲み始めてくれ」「飲み始めてもらえないか」などのように、話し手の自らの意志表現・願望表現もできるし、また、聞き手に働きかけることもできる。ただし、瞬間動詞の場合は、主体が複数であっても、<始める>はその変化の結果を描写するだけにとどまり、その変化を支配することができないのである。つまり、制御性は動的状態を表わす動詞にしか効力を持たず、静的状態を表わす動詞に対しては発動することができないということである。

呉(1995)では、<始める>と<テイル>との関係については、局面動詞「～始める」形の後につく「～ている」形は、動作過程・変化過程の始まりによってもたらされた状態の存続を表すアスペクト形式だとしているが、実際には、

<テイル>は<始める>の描写性を強化しているものと考えられる。一方、<始める>という局面動詞の制御性については、上記の研究ではいずれも言及されていない。

“开始(始める)”と<ハジメル>は描写性と制御性を持っているという点では共通しているが、描写性に制限があり、継続を表わす表現と共起できるかどうかという点では異なっている。<始める>は<テイル>との共起もできるため、“开始(始める)”よりさらに強い描写性を持っていると言える。

3. 4. 受動表現における始動局面

両言語にはいずれも能動表現と受動表現を持っているが、始動の局面と共起できるかどうかという点では異なっている。中国語の始動局面の表現は語により、受動表現と共起することができないが、日本語の始動局面の表現は、受動表現と共起することができる。たとえば、

- (15) *这种活动在各地开始被举行。(「このキャンペーンは各地で行われ始めている」の意)
- (16) 新作旧作に関わらず近年各地で行われ始めている。特に年配者は1960 ロケ地マップを作成するなど、フィルムコミッション事業と連携し旅行商品の創出を図る。(広告)
- (17) *开始被说那样的事儿。(「そのようなことを言われ始めている」の意)
- (18) 2015年9月8日 - そのようなことを言われ始めるのは、人々にわたしが老人と見られはじめたということに過ぎないからです。
(<http://www.doc88.com/p-909355782155.html>)

中国語は孤立語として、語順によってその文法関係を表わすことになる。しかも主として能動表現によって文法関係を表わすことになる。受動表現はあるものの、能動表現に比べて、かなり限られている。たとえば、“开始举行(行い始める)”“开始说(話し始める)”などのように、能動表現であれば、始動の局面は表現できるが、受動表現となると、文法的関係は混乱してしまうのである。“*开始被举行(「行われ始める」の意)”“*开始被说(「言われ始める」の意)”も、“*被开始举行(「行われ始める」の意)”“*被开始说(「言われ始める」の意)”も、表現としては許容されないのである。それで、“开始(始める)”は動的状态を表わす動詞と共起する場合は、能動表現においては効力を持つが、受動表現の場合は効力を持たない。中国語は語順による文法機能の発揮を果たしているからであろう。

中国語では、前記の具体的な動作・行為などを表わす場合は、受動表現との共起は許容されないのであるが、抽象的な行為を表わす場合は、受動表現と共起することができる。たとえば、“开始被人注意(注意され始める)”“开始被清算(清算され始める)”“开始被人夸奖(褒められ始める)”“开始被人讽刺(諷刺され始める)”などがそれである。このように具体的な動作・行為であるかどうかは、受動表現と始動局面の共起可否にかかわっているのである。

<始める>は受動表現においても始動の局面を表現することができる。「行う」「言う」「見る」などのような具体的な動作・行為を表わす動詞が受動表現に用いられる場合も、「注意する」「清算する」「褒める」「諷刺する」などのような抽象的な行為を表わす動詞が受動表現に用いられる場合も、<始める>と共起することができる。この点では、“开始”とは少し異なっている。

日本語は、粘着語として助詞・助動詞が発達しているため、能動表現だけでなく、受動表現も広く用いられている。受動表現の特徴は、客観的にある動的状态を表現することができる。そして、受動表現による始動の局面も表現することができる。能動表現でも受動表現でも動作過程におけるその始動の局面を表現できるのである。これが日本語の文法的特徴の一つと思われる。ただし、<始める>は描写性と制御性を持っているのだが、受動表現におい

ては主としてある動的状態を描写しているだけにとどまって、その動的状態の展開を支配することができないということである。

受動表現はある動的状態を客観的に表現しているので、主観による支配は想定できない。また、この点は能動表現との大きな異なりとも考えられる。能動表現は主観による表現であって、客観的な表現ではない。そのため、制御性の発動はできるのである。ところが、受動表現となると、描写性が強調されてしまうという一方、制御性は発動できない。これこそ能動表現と受動表現の根本的な異なりであり、また、始動の局面を表わす文法形式の異なった様相とでも言える。この点については従来の研究ではあまり述べられていない。

“开始(始める)”は抽象的な行為を表わす場合でなければ、受動表現には用いられないのに対し、<始める>は受動表現においても、始動の局面を表現することができる。ただし、描写性を発揮することはできるが、制御性を発揮することはできない。文法的機能の面においては、<始める>は受動表現の場合にも果たすことができるので、強い描写性を持っているものと言えよう。

4、まとめ

動作過程と変化過程のいずれも視野に入れて、動的状態の始動の局面を表現し、その局面について描写性と制御性を保有しているという点では両言語は大体共通しているが、静的状態の始動の局面も表現し、持続を表わす<テイル>と具体的な行為を表わす受動表現とも共起し、強い描写性を保っているという点では、<始める>は“开始(始める)”と異なっている。

“开始(始める)”は動的状態の始動局面を表現することができる上に、その局面については描写性と制御性を保有している。語によっては静的状態の始動の局面も表現することができるものの、かなり制限を受けている。抽象

的な行為の受動表現の始動局面は表現できるが、具体的な行為の受動表現の始動局面は表現できない。主として能動表現に用いられるのが特徴である。

<始める>は、動的状態の始動局面を表現することができる他、また、主体が複数であれば、静的状態の始動局面も表現することができる。動的状態に対しては強い描写性と制御性を保有しているのも、意志、願望、命令、依頼などの表現にも使用することができる。また、持続を表わす<テイル>とも共起し、受動表現においても始動局面を表現することができる。

注

- 1、本研究では中国語の考察語については“ ”、日本語の考察語は< >で示す。以下同じ。
- 2、本研究で取り上げた“开始+動詞(動詞+始める)”と<動詞+始める>は、それぞれ“开始+V(V+始める)”、<V+始める>と表記する。以下同じ。
- 3、“動詞+起来”と<動詞+てくる>については別稿に譲り、ここでは取り上げないこととする。
- 4、中国語では、始動の局面を表わすものとして“動詞+起来”という構造における“起来(てくる)”だけを取り上げているが、“开始+動詞”についてはほとんど触れていない。
- 5、先行研究における論考の括弧等については原著の表記に従うこととする。以下同じ。
- 6、鄭(1986)では“开始+動詞(動詞+始める)”と<動詞+始める>を中国語と日本語のアスペクトの表現の一形式として取り上げてはいるが、考察はなされていない。詳しくは鄭(1986)を参照されたい。
- 7、“开始(始める)”と<始める>はそれぞれ、“会议开始了(会議は始まった)”、「工事を始める」などのような本動詞としての用法があるが、本研究ではその用法を

考察の対象から除外する。

- 8、馬(1992)ではこの種類の動詞は持続性を持たない動詞として分類されている。
持続性の有無については同(1992)を参照されたい。
- 9、この点については呉(1995)でも述べているので、参照されたい。
- 10、“开始(始める)”は動的状态を描写する場合は、“了(タ)”とは共起できるが、
持続を表わす“着(テイル)”とは共起できない。

文献目録

中国語

- 北京大学中文系 1955・1957 级语言班编(1982)《现代汉语虚词例释》商务印书馆
戴耀晶(1997)《现代汉语时体系统研究》浙江教育出版社
房玉清(1992)《实用汉语语法》北京语言学院出版社
胡裕树 范晓主编(1995)《动词研究》河南大学出版社
李铁根(1999)《现代汉语时制研究》辽宁大学出版社
李向农(1977)《现代汉语时点时段研究》华中师范大学出版社
刘勋宁(2019)《现代汉语时态标记“了”的研究》日本侨胞社
吕叔湘主编(1984)《现代汉语八百词》商务印书馆
马庆株(1992)《汉语动词和动词语性结构》北京语言学院出版社
石毓智(2006)〈论汉语的进行体范畴〉《汉语学习》第三期
孟琮等(1987)《动词词典》商务印书馆
王学群(2007)『中国語の“V着”に関する研究』白帝社
张黎(2012)《汉语意合语法研究——基于认知类型和语言逻辑的建构》白帝社

日本語

- 奥田靖雄(1977)「アスペクトの研究をめぐって—金田一的段階—」『宮城教育大学国語国文』8
小田由美(1986)「局面動詞「～はじめる」について」『国語研究』第4号(横浜国立大

学)

金田一春彦(1950)「国語動詞の一分類」金田一春彦編(1976)『日本語動詞のAspect
ト』むぎ書房

工藤真由美(1982)「シテイル形式の意味記述」武蔵大学『人文学会雑誌』13巻4号

呉鐘烈(1995)「Aspectと局面動詞」『日本語と日本文学』第19号

須田義治(2010)『現代日本語のAspect論』ひつじ書房

高橋太郎(2003)『動詞九章』ひつじ書房

寺村秀夫(1984・2003)『日本語のシンタクスと意味』IIくろしお出版

鄭兆宏(1986)「日中両国語におけるAspectの比較対照」『語文研究』第62号

仁田義雄(2009)『日本語の文法カテゴリをめぐって—仁田義雄日本語文法著作選第
1巻』ひつじ書房

原由起子・常次莉恵(2010)「“V起来”、“开始V”と「だす」、「～始める」」『現代中
国語研究』12号

廖紋淑(2005)「局面動詞「～始める」、「～続ける」、「～終わる／～終える」と内的状
態動詞との共起関係についての記述的研究」『ことばの科学』第18号

(山東大学特聘教授・元愛知教育大学教授)